

小沢代表が辞任撤回

民主幹事長らの要請受け

「恥をさらすが頑張る」

自民党との連立協議をめぐる混乱の責任を取り辞任表明した民主党の小沢一郎代表は六日夜、党幹部からの辞任撤回要請を受け、一転、代表にとどまる意向を固めた。六日夜に小沢氏と会談した鳩山由紀夫幹事長は、小沢氏が「恥をさらすよすがだが、ぜひもう一度頑張りたい」と述べ続投の意向を示したことを明らかにした。

民主党役員会は「自民党との連立はしない」とする事実上の条件付きで小沢氏を慰留、小沢氏が受け入れたものとみられる。

ただ、小沢氏は新テロ

対策特別措置法案などをめぐる与党との政策協議に積極的で、連立を目指しているとの見方は依然消えていない。独断で福田康夫首相との協議を進めたことや、それに伴う

混乱で国会審議の主導権を与党に奪われたとする党内や他の野党の批判は根強い。

辞任表明の記者会見で「力量不足」「次期総選挙での勝利は厳しい情勢」と、自ら代表を務めながら党を厳しく批判したことに党内の反発は厳しく、求心力回復には疑問符が付く。党運営をめぐる路線論争も顕在化しそつだ。

政府、与党は対テロ新法案をめくり、一カ月程度の会期延長を検討。野党が多数を占める参院で否決された場合、衆院で三分の二の多数による再議決を視野に強気の国会運営を進める構え。小沢氏が党内の混乱を收拾し、態勢の立て直しを図

れるかが焦点だ。

福田首相と小沢氏は、十月三十日に初の党首会談を開く。今月二日の二度目の会談で首相が連立政権協議を提案、小沢氏は受け入れるべきだと判断し持ち帰ったが、党役員会は「国民の理解を得られない」と拒否を決定した。

小沢氏は四日の緊急記者会見で「けじめをつける」として代表辞任を表明。鳩山幹事長が五日、慰留を要請したのに「昨日、辞職願を出したばかりだ。心の整理に時間がかかるのでそれを待つてほしい」と回答を留保。

民主党は六日、当選回数別に所属国会議員の懇談会を開くなどして、意見聴取。一部に慎重論があったものの、慰留方針を確認し、鳩山氏、菅直人代表代行が六日夜、小沢氏に再度、辞意の撤回を求めた。



ホテルを出る民主党の小沢代表

6日午後7時15分、東京都中央区